

4.8 フォーラム

熊本大学は大学の教育研究活動を広く社会に広報すると共に今後の充実・発展のための意見交換の場として、2003年から「熊本大学フォーラム」を開催してきた。当初は工学部が中心になって企画し、東京・関西・中国上海・韓国太田、さらに2007年は地元熊本で開催した。第6回の「熊本大学フォーラム」は、2006年から4年間の計画で(独)国際協力機構(JICA)と契約した「インドネシア国スラバヤ工科大学情報技術高等人材育成計画」技術開発プロジェクトでの活動や、同大学との大学間協定等を通じた交流などを踏まえ、東南アジア地区で初めてインドネシア第二の人口を誇る大都市スラバヤで、2008年11月5日・6日の両日に開催した。このフォーラムは、日伊国交回復50周年記念事業の一環としても位置づけられている。

5日はスラバヤ工科大学の大講義室にて、熊本大学およびスラバヤ工科大学を中心とする東部インドネシアの大学からの研究発表が行われた。会議は、スラバヤ工科大学エコ副学長ならびに熊本大学阪口前副学長の挨拶で始まり、谷口工学部長(現学長)の司会で日伊双方からの基調講演が行われ、引き続きインドネシア・パプアを含む国立大学からのTV会議システムを利用した研究発表を行った。午後は、日伊双方から口頭発表形式ならびにポスター形式で研究発表を行い、熊本大学から総計23件、インドネシア側から22件が発表された。日伊双方の学生は、会場での意見交換の機会のみならず、同日夕刻の交流会でも大いに語り合い、当初は遠慮気味であった会話も、翌6日には親しく声をかけあっていた。

フォーラム2日目は、スラバヤ市中心部にあるシェラトンホテルのボールルームで開催された。大学院自然科学研究科檜山科長の司会で、スラバヤ大床総領事ならびにインドネシア政府情報通信省スー大臣(前スラバヤ工科大学長)による来賓あいさつに続き、インドネシア政府高等総局島JICAアドバイザーの文部科学省による留学生30万人計画についての基調講演に続き、スラバヤ工科大学スプロボ学長ならびに熊本大学崎元学長(当時)による基調講演が行われた。両学長の講演では、それぞれの大学における今後の国際展開と連携について議論がなされた。

基調講演に引き続き、従来の大学間交流協定を展開する形で、東部インドネシアの4つの大学をスラバヤ工科大学が取りまとめたコンソーシアムと熊本大学の間での交流協定を締結するための調印式が行われた。この交流協定により、熊本大学は、従来のスラバヤ工科大学との点と点のつながりから、5大学との網としての連携が確立した。午後も、JICAインドネシア事務所富谷次長、熊本県竹上次長、阪口副学長を含め日伊双方の立場から5件の基調講演が行われた。講演と並行し、日本を紹介する資料の配布や前日の研究発表ポスター展示、さらに日系企業からの製品紹介展示なども行われた。

会議後、熊本大学のインドネシア在住の卒業生や前日の学術講演の参加者も招待し、懇親会が盛大に開催された。参加者は、2日間の会議での親交を確かめあった。会の中ほどでは、スラバヤから50km以上はなれたマーラン市在住の本学卒業生の挨拶や、前日のポスター発表の優秀者の表彰などが行われた。

熊本から4000km以上の距離が離れた南緯6度の南国の地まで、学長以下50名ほどの教職員・学生が出向いての大規模なフォーラム開催は、スラバヤ工科大学、総領事館、JICA、熊本県、工業会各方面からの支援により、はじめて成し得たものであり、今後インドネシアの各機関との熊本大学との絆を一層堅固なものとする事ができた。